

# 三浦半島支部だより

平成23年9月19日発行  
第12号

発行者: 社団法人宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部 企画・広報委員会  
事務局: 鎌倉市津西 1-31-15 Tel:0467-32-4957

## 支部長挨拶 古川 勝彦



(社)宮陵会三浦半島支部長の古川(昭和40年経済卒)でございます。

まず始めに、国難とも言うべきこのたびの東日本大震災により、

被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げますと共に、犠牲になられた方々に対しまして、謹んでお悔やみ申し上げます。

さて、当支部も、皆様の支えやご協力のおかげで、早いもので満5年が過ぎました。感謝の一言であります。

また、6月19日の支部総会には、お忙しい中を来賓をはじめ会員多数のご参加をいただき、厚くお礼申し上げます。

おかげさまで、第1部では神奈川大工学部建築学科重村力教授から、今皆様が一番関心をお持ちのテーマ「大震災から学ぶもの」の記念講演会を行っていただき、非常に好評でした。

また、第2部の総会では、提出の議案を熱心にご審議いただき、すべてご承認いただきました。

さらに、第3部の懇親会では、参加者の交友の輪を拡げ、来賓のご挨拶、新規会員のご紹介、アトラクション等、楽しく過ごさせていただき、会員相互の連帯がますます深まったのではないかと感じております。

支部発足以来、種々苦難を乗り越え、現在、支部の体制構築と活動の充実に取り組んでおりますものの、まだまだ道半ばであります。基本姿勢は、皆様と力を合わせ、知恵を出し合い、地動な活動を重ねつつ、私見として「神奈川の地に神奈川大学の礎を築き、神奈川大学を中心に卒業生が各界で繋がり、輪を拡げ、協力、助け合わなければならない。」と、強く考えております。

最後に、日頃より会員皆様をはじめ役員の方への支えに感謝しておりますと共に、引き続き皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願いいたします。

## 平成23年度総会を開催

～記念講演会・総会・懇親会～

平成23年度支部総会が、6月19日(日)に、来賓の(社)宮陵会小川勲夫副会長(昭和37年機械卒)および池原治神奈川大学国際センター事務部長(昭和50年法律卒)はじめ37名の出席を得て、京急横須賀中央駅そばのセントラルホテルで開催されました。

開催に先立ち、全員で東日本大震災の犠牲者に1分間の黙祷を奉げました。

### ～第1部 記念講演会

「大震災から学ぶもの」～

第1部の講演会では、矢澤基一鎌倉地区幹事(昭和44年経済卒)の総合司会により開催されました。

砂川正夫副支部長(昭和44年経済卒)の挨拶・講師紹介のあと、神奈川大学工学部建築学科重村力教授による「大震災から学ぶこと」という演題で記念講演会がありました。

教授は、阪神大震災で被災し、崩壊した自身居住のマンションを自治体と折衝しながら再建した経験から、復興には住民の絆が大切なこと、自治体は住民の絆を考慮して復興計画を立てなければいけないこと。現に神戸でも旧住民が離散した地域があること等を話されました。

また、東日本大震災については、豊富な現場写真を使って被害の状況を説明されましたが、特に印象深かったのは、祖先の津波被害の伝承を生かして九死に一生を得た地域があったという話でした。

なお、教授は今回被災した地域で4名の神大出身の自治体の長と膝を交えて意見を交わしたとの報告がありました。

時宣を得た講演題目でしたので、今回も新聞を通じて広報のうえ一般にも公開いたしました。一般来聴者も興味深そうに聴いていました。(詳しくは2頁「講演会要旨」をご覧ください。)

## ～第2部 総会

### 総会提出議案を原案通り承認～

第2部の総会では、冒頭に古川勝彦支部長（昭和40年経済卒）より、平成22年度まで5年間の会員各位の支援に対するお礼と、引き続き平成23年度の活動への協力依頼がありました。

まず、総合司会の矢澤基一鎌倉地区幹事が、支部会則により、議長に小池邦夫副支部長（昭和38年機械卒）を推薦し、全員の了解を得て、議事に入りました。

原柳作事務局長（昭和46年英文卒）による第1号議案:平成22年度事業報告と鈴木稔会計（昭和44年経済卒）の第2号議案:平成22年度収支決算報告が、議案書に沿って順次説明され、村田龍也会計監査（昭和39年経済卒）が監査意見を述べ会員に諮ったところ、「異議なし」の声と全員の拍手で承認いたしました。

また、引き続き支部会員相互の親睦と会員増強、大学の文化的行事への積極的参加、スポーツ行事への応援等の第3号議案平成23年度事業計画（案）および第4号議案平成23年度収支予算（案）について、原柳作事務局長から提案され、審議後、承認されました。

## ～第3部 交流を深めた懇親会～

第3部の懇親会は篠田拓郎鎌倉地区幹事（昭和31年貿易卒）の相変わらずお元気の乾杯の発声に始まりました。

小川副会長による宮陵会の近況報告、池原事務部長による新年度の大学の再構築計画等の報告がありました。

続いて、横須賀市議会議員2期目に挑戦し、当選した松岡和行氏（昭和54年法律卒）より挨拶がありました。当初寸暇を割いて懇親会に出席を予定していた齊藤勲衆議院議員（昭和44年法律卒）は、時局柄出席いただけませんでした。

また、今回初参加の深津敏夫氏（昭和51年経済卒）、新入会員の稲垣茂氏（昭和47年法律卒）、嶋田順子氏（昭和47年短大商卒）、田中章仁氏（平成10年経済卒）の紹介がありました。なお、田中氏は藤沢支部の村田義郎氏（昭和59年経済）を同伴されましたが、両人は日大藤沢高校野球部の先輩・後輩の仲だということでした。

さらに、特別参加で新潟大学卒業後鎌倉市役所勤務の森真依子氏が、人脈作りのために出席されました。

途中、支部同好会世話人による同好会紹介、小池副支部長による紙きり等の余興もあり、大いに盛り上がりました。以上和やかな雰囲気のうちの一同時の経つのも忘

れるほどでしたが、嶋田晃氏（昭和47年経済卒）の中締め、鈴木和夫氏（昭和46年法律卒）のエンルにより全員で校歌を合唱後、懇親会を無事終えました。なお、名残りを惜しむ10名近くの会員は、2次会のために用意された別室で更に歓談いたしました。



6月19日セントラルホテルで 参加者の面々

## 講演会要旨

### ◎重村力教授のプロフィール

昭和21年横浜市戸塚区生まれ。建築家。湘南高校から早稲田大学理工学部建築学科、同大学院修士課程終了後、東洋大学、早稲田大学の講師、昭和53年神戸大学専任講師を経て平成7年神戸大学建築学科教授、同大学院先端融合研究環教授を経て、神奈川大学教授に就任。神戸大学名誉教授。元日本建築学会副会長。中越震災復興提言委員会主査。研究分野は、減災計画や復興計画、地域計画、建築計画、建築デザインなど。神戸大学助教授時代に阪神大震災で被災。インドネシアやスリランカの地震では、被災地の復興に携わった経験を持つ。今回の東日本大震災の被災地の復興についても大きな関わりを持つ。

### 災害との関わり



本日は、お招きをいただきありがとうございます。

私は、防災復興の専門家ではありませんが、たまたま16年前に阪神大震災で被災し、それ以来、地域復興に関わってきました。今でも阪神の復興は難航していますが、当時は、住民としてどうやったらもう少しまともな復興ができるのかを考えて、それ

以降の震災等に提言したり、計画を提出したりしています。

私は2年前に神奈川県に帰ってきましたが、元々横浜が故郷ですので、神大で教えることができ幸せです。また、横須賀はいろいろな思い出のあるところですし、昔はヨット等もやっていたので、近くのを帆走したりしていました。

私は建築設計者ですが、超高層ビルなどを設計するのではなく、学校や市民文化施設など地域のコミュニティー施設を主に設計しています。今回は集落の復興、特に漁村集落について4月の被災の学術調査とそれ以降2回ほど調査をしていますので、それらについて映像を使って皆さんにお話をしたいと思います。

### **三陸と高所移転**

今日は主に三陸、特に岩手県沿岸のお話をいたしますが、今回の地震は、青森から千葉に至る非常に広いエリアが被災し、マグニチュードが大きかったため、建物の被害だけでなく、津波・火災・液状化・地盤沈下・原発・放射能汚染というような災害をもたらしました。三陸というと何か寂しい寒村がいっぱいあるようなイメージを持っているジャーナリストがいるようですが、実際は世界三大漁場の1つと言われており、暖流と寒流が会うすばらしく豊かな海です。リアス式の海岸ですので、非常に深い入り江が多く、皆さんが大好きなアワビ・ホタテ・うに・ワカメ・牡蠣などの養殖漁業が行われています。さらに沖合では巻網、沿岸では定置網があって非常に豊かな漁場です。また世界で最も進んだ資源管理型の海で、気仙沼の漁民は、「森は海の恋人」と言って岩手県側の川の上流で植林をしています。日本中から船が集まって来て、遠洋漁業で採った魚が石巻や宮古、気仙沼に入ってきます。まさに森進一の歌に歌われた港に入ってくる訳です。その港を復興することは、日本のGDPにとっても大きいことです。我々の日常の魚食文化のためにも必要なことです。三陸には何百という集落があり、さらに水産業の基地となる大きな都市が存在しているため、どちらかにまとめれば良いというものではありません。それは、現地を歩いてみればすぐ分かります。だから難しい。一方、三陸は明治29年と昭和8年に大津波を受け、吉村昭が「三陸海岸大津波」という本で書いていますが、それ以降、高所移転という高いところに家を移転させる事業が行われたのですが、それが徹底しないまま三度目の大惨禍を受けてしまいました。なお、防潮堤などがありましたが、これが十分機能しないで、津波による破壊や越水を招き、これによって集落が被災してしまいました。4月に私が歩いた時には、食べる場所がないため食料は準備していかなければいけないし、ガソリンも持っていきました。道は通れない所が多く、大変な状況でした。遠野市の本田市

長（昭和45年法律卒）には大変お世話になりました。

高所移転の例としては、「吉浜」「綾里」「船越」等では、低地は全部やられました。高所移転した家は助かっています。一方津波は、谷があると遡る傾向がありますが、「花露辺（けろべ）」や釜石市の「唐丹本郷」では、浜辺にいた人は、神社などに登り助かりました。だいたい神社は高いところにあるため、どこも被災していません。

### **コミュニティの復興**

関東大震災から東日本大震災に至る過程での反省と進化したことは、地域社会と地域経済が復元力を働かせて、持続的な復興を目指すべきだという考えが多くなっています。例えば、阪神大震災の時、六甲山の北の方に仮設住宅を作り、そこにいろんなところから年寄りを集めました。その結果、地域社会をシャッフルしてしまいました。このことが後で復興していくための足かせになりました。地域社会は、そのままに持続できる限り持続するように復興しなければいけません。これは、中越地震の時に「帰ろう山古志村へ！」というキャッチフレーズのもと、長岡ニュータウンに集落単位で入り、6割の人が山へ戻りました。福岡西方沖地震の時も集落単位で福岡市のかもめ団地に仮設住宅を作りました。それは、地域社会を持続していこうということです。それからもう1つ、地域経済が持続しないと結局はだめになります。この2つは当たり前ではないかと思われませんが、例えばハリケーンカトリナの災害で、アメリカが反省しているのは、ニューオーリンズの地域社会が持続していないし、10万人を超える人達が、連邦から小切手をもってアメリカをさまよっています。その結果、ミシシッピ川の河口で栄え、クオール料理やジャズ音楽のあるすばらしいニューオーリンズの街の地域経済は、うまくいっていない。神戸市も同じように震災以降、例えばダンロップの拠点である住友ゴムの本社が撤退することを平気で許してしまいました。その結果、長田町のケミカルシューズ業界がうまくいかなくなる。そのようなことに気付いて旦那衆ががんばったのが、日本酒業界で神戸の灘の木一本は、おかげさまで続いている。菊正宗や剣菱は健在です。

これからの大きなテーマとして、復興した時に以前とまったく違う景色になってしまうと、まったく違う街になってしまうということです。例えば、神戸市長田区は、以前は下町で安い値段で食べられ、そこで働く人達が安い住宅に入り、給料は安いですが中小企業は栄えるという構図でしたが、高層ビルが何十本も建ち、12m道路がボンボンあるような景色になってしまうと、結果的に閉古鳥が鳴くということになってしまいます。ですから、まったく変えないということは難しいですが、地域の景観を連続させていくということも非常

に重要なことです。

### 適切な土地利用の必要性

なお一方で、地域構造を変えなければいけないところは、変えるということです。今河口部の大きな都市、宮古・釜石・大船渡・陸前高田・気仙沼・石巻といったところの海辺に住宅が一杯あるような状況は、避けなければいけません。釜石には古くから製鉄所がありますが、少し高いところにありますので、やられていません。明治の人は偉いと思います。海岸沿いで今回の津波でやられたところは、最近作られた工場です。このことは、改めて指摘しなければいけないと考えております。

宮古の姉吉（あねよし）に有名な碑があり、そこに「高き住居は児孫に和樂 想へ惨禍の大津波 此処より下に家を建てるな」と刻まれています。そうすると、この場所まで津波が来ることが分かる訳です。三陸には津波の石碑が沢山あって、それを研究テーマにしている方もいます。群馬大学のHPにも津波の石碑の写真がいっぱい出ています。

ところで、もし首都圏が被災した時に考えておかなければいけないこととして、被災地域を支援する拠点作りです。今三陸では、内陸部に自衛隊が駐屯していて、そこが物流拠点になっています。いざという時支援拠点になるよう、例えば広域な病院や学校を置いておくとか、とにかく広い場所を確保して、何かあった時に役立てるということをしなければいけないと考えています。阪神大震災では被災したエリアの中が狭く、かつ大阪や姫路が無傷でした。また六甲山から北はまったくやられていませんでしたので、四方八方から支援ができました。首都圏がやられた時にはどうなるか、ということを考えておかなければいけないと思います。

### 災害と伝承、津波教育

津波で人的被害を減らす方策として大切なことは、日頃の津波に対する教育です。今回、津波の警報が出ていましたが、警報が一種の「オオカミ少年」になっていて、今回もたいしたことはないだろうと考えた人が、沢山犠牲になりました。しかし、逃げて助かった人達は、明治29年や昭和8年の津波のことを散々聞かされ、学校での演劇やさまざまな形で津波の怖さを体に身に付けていたようです。私も阪神大震災で近所の人を助けましたが、親が横浜で関東大震災を経験し、被災した話を繰り返したかというほど聞かされていたので、それが大変役に立ちました。

私が考える復興というイメージですが、和歌山県に広村という所で、昔、浜口梧陵という人が、稲束に火を付けて津波を知らせた「稲むらの火」で有名になっている場所がありますが、沢山の命を救っただけでなく、その後2年間かけて広

村に堤防を作りました。その堤防が今も残っていますが、昭和の南海地震でもこの村を守りました。普段は非常に美しい堤防です。こういう発想が必要ではないかと考えております。

### <質疑応答（抜粋）>

①復興するのにどれ位の時間がかかるのでしょうか。

○復興に対するイメージが、人によってさまざまなので難しいですが、色々な所を見てきた感じでは、2～3年である程度、かっこがつくのではないかと考えています。

②三浦半島は活断層のうえにあるため、いつ大きな地震があってもおかしくありません。学問的にいつくるか分かりませんか。

○私は地震学者ではありませんので分かりません。明日くるかもしれませんし、20～30年の間にくるかもしれません。ただし、建築学者としてお答えできるのは、新しい耐震基準で作られた建物で壊れたものは、非常に少なかったということです。ですから、耐震補強はきちんとされていた方が良いと思います。それから、家具に殺されないよう、重い家具やピアノ等は強固に固定し、重くて倒れやすい物には、粘着ゴム（一つ100円程度）を敷く等の対応をしておくことが大切です。また、津波の対応ですが、地震発生後にすぐ来る訳ではありません。最も早くても10分以上、東日本大震災では30分から1時間後に来た訳ですので、逃げるということが基本です。それから、あとは火事の対策です。

③復興の仕方として、どのような形が地元や将来にとって一番良いのですか。

○阪神大震災の経験で言うと、私が住んでいたマンションは7階建が6階になりました。1階は駐車場でしたが、完全に潰れてしまいました。よく人が死ななかったと思います。このマンションは、住民が自力で復興して大部分の住民が戻ってきた（30軒中28軒）最初のマンションとして、朝日新聞の一面で取り上げられました。この再建方式が、その後のマンションの再建方法として国の法律のひな型となりました。再建に当り、まず3つの原則を作りました。「みんなで一緒に帰ってこよう」、「みんなで徹底的に話し合おう」、「みんなで痛みを分かち合おう」でした。いろいろなスキームやしきみを考え出し、全員の了解を取って住宅金融公庫や三井住友銀行、国交省とかに行き、これだけやっても20%位金が足りません、何とかしてくれませんかという風にして、マンション復興法ができました。今回もこのようなことを一生懸命考え、先に進んだ所が後から法律になるというしきみができるのではないかと考えています。現地の地域のリーダーさん達は、皆さん立派ですので期待しております。

# 東日本大震災特集

## ～現役学生のボランティア感想文～

神大では、「東日本大震災被災地支援チーム」(KU"東北"ボランティア駅伝)を編成して被災地に派遣していますが、ボランティアに参加した三浦半島支部エリアに在住している現役学生から、感想文が届きましたのでご紹介いたします。

### ●法律学科3年生

今までになかった大震災、大津波の状況を見て見ぬふりをしたまま大学を卒業して社会に出て行くのは恥ずかしいと思ったので、今回のボランティアに参加しました。

初日に釜石市を視察しましたが、何度もテレビで見た被害の映像より何倍も受けるダメージが大きかったです。

こんな大きな被害を受けているにも拘らず現地の人はとても暖かく、私達のようなボランティアが来てくれるだけで嬉しいと言ってくれました。被災者の方を元気づけようと思っていたボランティアでしたが、むしろ現地の方の明るさに元気をたくさんもらい、短い間でしたが貴重な体験をさせていただきました。

### ●人間科学科2年生

瓦礫は決して残骸・価値のないものではなく、一つひとつ誰かの思い出の品であること、匂いや町並みなど、テレビの切り取られた情報では伝わってこない被災地の姿を自分の身体全体で感じることで良かった。

自然の驚異を目の当たりにして、自分なんかには何ができるんだろう?と思ったが、物資センターで出逢った被災者の方々、特に子供たちと話をし、少し胸の内を明かしてくれたり笑顔を見せてくれると、自分がここにきた意味があったのかもしれない、と思えた。横浜へ帰ってきた今、次は、この4日間で自分が見たもの、聞いたこと、考えたことを多くの人に伝えることが、私にできることだと思う。

### ●人間科学科2年生

釜石市を自分の目で見て、呆然としてしまいました。本当に何も無い、誰もいないという状況で、不謹慎だとは思いましたが、不気味な感じがしました。本当に大地震、大津波が来たんだなと、やっと実感しました。

メインの物資の配布・チェックでは、受付で被害状況等を記入した紙を受け取るのですが、やはり、「全壊」に丸が付いている人が大半で、なんとも言えない気持ちになりました。皆さん明るく元気な方が多くて驚きました。物資にも限りがあるので、これはダメですと説明すると「ごめんごめん」と怒

るそぶりもみせず、大変な状況なのにきちんとルールを守れるのはすごいと思いました。また、子供たちとも触れ合いがあったのですが、こっそり「外で思い切り遊びたい」と教えてくれました。胸が痛くなり、この子供たちのために何かしたいと思いました。また、お手伝いに行ったり、子供たちを支えたいと思いました。

### ●法律学科3年生

震災発生当時から現地へ行ってボランティアへ参加しようという気持ちを持っていたので、まず、このような機会を与えてくれた大学と現地の方々には大変感謝しています。

4か月という月日が経過し、復興がずいぶん進んでいると思いついていたため、現地に到着したときは、あまりの被災状況にショックを隠せませんでした。しかし、現地の方々はとて前向きで明るい方が多かったです。復興への熱い気持ちと強いパワーを感じました。それを自分の目で見て肌で感じることで、本当に良かったです。考えも変わりました。良い経験になったと思っています。

## ～震災と税務(義援金の取り扱い)～

新規会員の田中さんから震災時の状況と義援金の税務的取り扱いについて原稿をいただきました。個人または法人で義援金等を寄附された方は、参考にしてください。

### 「震災と税務～法人・個人の義援金の取り扱いについて～」

平成10年経済学科卒の田中章仁です。



6月19日に開催されました定時総会より新規参加させていただきました。今後ともよろしくお願いたします。

まずは、東日本大震災で被災された方々にはお見舞い申し上げます。

地震当日、私は渋谷の事務所におりました。大きな横揺れが長く続き、気づいたら書棚を抑えるのが精いっぱいでした。幸い事務所での大きな被害はありませんでした。外を見ると、近くの学生達が広場に集まって避難していました。時間が経つにつれ、その被害の大きさを知ることになります。テレビで報じる津波の映像にただ呆然とするばかりでした。

税理士として、今回の震災によるお問い合わせの多いご質問をお伝えいたします。

### 【個人の方が義援金等を寄附した場合の取り扱い】

個人の方が、義援金等を寄附した場合、「特定寄附金」に該当するものであれば、寄附金控除の対象になります。特定寄附金とは、①国又は地方公共団体、②日本赤十字社の「東北関東大震災義援金」口座へ直接寄附した義援金、③新聞・放送等の報道機関に対して直接寄附した義援金等で最終的に国

又は地方公共団体に拠出されるものなどがあります。  
 寄附金控除を受けるためには、確定申告書に寄附金控除に関する事項を記載するとともに、義援金等を寄附したことが確認できる書類（例えば受領証、領収書、募金団体が発行する預り証など）を確定申告書に添付するか、確定申告書を提出するときに提示する必要があります。

$$\text{寄附金控除額} = (\text{その年中に支出した特定寄附金の合計額}) - 2,000\text{円}$$

※特定寄附金の合計額は、所得金額の40%相当額が限度です

例えば、年収500万円（専業主婦の妻と子供2人の4人家族・年末調整済）のサラリーマンが、5万円を寄附した場合の寄附金控除額は48,000円となり、所得税率相当分（このケースでは10%）の4,800円が確定申告をすることによって還付されます。

【法人が義援金等を寄附した場合の取り扱い】

法人が義援金等を寄附した場合には、その義援金等が国等に対する寄附金、「指定寄附金」に該当するものであれば、その支出額の全額が損金の額に算入されます。

その他税制改正等で随時取り扱いが変更になる場合がありますので、ご不明な点等がございましたら、私までお問い合わせください。メールアドレス：[akihito.tanaka@tanaka-tax.com](mailto:akihito.tanaka@tanaka-tax.com)

## 大学の近況報告

（社）宮陵会理事会等で報告されたものを、まとめたうえで記載いたしました。

### 東日本大震災の被害状況と支援策

- 主な被害状況（384名分）
  - ・ 在学生の直接被害なし
  - ・ 家族等の被害：保証人の死亡 3名（学費全額免除）
  - ・ 家屋等の損壊等：全壊 26名（全額免除）  
半壊 38名（半額免除）  
一部損壊 289名（30%免除）
  - ・ 保証人関係：財産等の消失 5名（半額免除）  
一時休業等 6名（30%免除）
  - ・ 原子力発電関係： 17名（半額免除）
- 罹災学生等への経済支援  
 横浜・平塚キャンパス内に被災された学生の相談窓口「東日本大震災学生支援室」を設置（H23.4.4～）  
 支援策費用：約3億円

相談件数：545件（7.24現在）、経済支援確定者：384件、経済支援対象者：92件、計476名

- ・ 新入生への支援  
 下宿・住居の家賃支援 15万円（5万円×3か月）  
 生活用品購入等に対する支援 10万円
- ・ 在学生への支援  
 家賃補助 学生寮居住者 3か月分免除（約13万円）  
 民間間<sup>※</sup>ノ等居住者 15万円
- ・ 学費減免支援 学費100%免除～30%免除
- ・ 福島第一原子力発電所事故の支援  
 警戒区域（20㌾圏内）計画的避難区域 学費半額免除
- ・ H24入学検定料の免除  
 災害救助法が適用された市区町村等に本人又は保証人が居住し、大学・大学院を受験する者：全額免除
- ・ 卒業生への支援：H23.3の卒業生 一律5万円

■ 「東日本大震災被災地支援室」の設置（H23.4.18設置）  
 被災地への人的・物的支援、そして社会貢献・教育活動の一環として、積極的に学生・教職員の支援活動を推進していくために設置

- ・ 「東日本大震災被災地支援チーム」（KU "東北" ボランティア駅伝）の編成：10名程度のチームを編成  
 4.28～7.17現在 447名参加  
 7.20～9.25 278名参加予定

■ 被災自治体への見舞金：中止した卒業式祝賀会費用650万円全額を復興に取り組んでいる神大出身知事・市長等の自治体に被害状況に応じて贈る

- ・ 福島県（佐藤雄平知事 昭和45経済） 300万円
- ・ 石巻市（亀山紘市長 昭和41年応用化学） 200万円
- ・ 遠野市（本田敏秋市長 昭和45年法律） 100万円
- ・ 福島県棚倉町（藤田幸治町長 昭和38年法経） 50万円

■ 「東日本大震災罹災学生支援募金」（仮称）の検討  
 本学の罹災学生の経済支援を継続的に行うために、支援基金の立ち上げを検討し、本学学生の奨学金等に充てる。

### 学事関係の報告

- H23 年度入試状況  
 学部志願者：30,008名、合格者 9,374名、入学者 4,263名  
 大学院志願者：391名、合格者 308名、入学者 266名  
 法務研究科志願者：41名、合格者 22名、入学者 13名
- 理学部・工学部の再構築（H24 年度）  
 理学部：数理・物理学科を新設  
 工学部：経営工学科を新設（情報システム創成学科は存置）

電子情報工学科を電気電子情報工学科に  
名称変更、「総合工学プログラム」として環境  
工学コース、生体機能・医用工学コース、コンピュータ  
応用工学コースの3つのコースを設置

#### ■入試制度の改革

H24 年度入試から、公募制の「卒業生子弟・子女推  
薦入試制度」を新設し、実施する。

#### ■米田吉盛教育奨学金の実施

H22 年度から給付型の奨学金制度を開始し、H22 年  
度は、1,207 名を採用した。

#### ■主な課外活動の状況

- ・スケート部：第34回全日本ショートトラックレボード選手権大会  
女子個人総合 優勝（人間科学部3年 齋藤仁美）  
男子個人総合 準優勝（人間科学部3年 小黒義明）
- ・レスリング部：H23年度全日本選抜レスリング選手権大会71kg  
級 96Kg級 準優勝（経営学部4年 入江 泰久）
- ・トライアスロン部：第4回日本学生スプリングトライアスロン大会  
優勝（法学部4年 石塚祥吾）
- ・平塚軟式野球部：H23 年度春季南関東大学軟式野  
球連盟リーグ戦 優勝（関東大会へ）

#### ■H23年新司法試験（短答式試験）の結果

受験者61名中短答式試験の合格に必要な成績を得た  
もの38名（合格率62.3%、74法科大学院中31位）

### 齋藤 勤氏 内閣官房副長官に就任



当支部の懇親会にもしばしば参加さ  
れている齋藤勤氏（昭和44年法律卒）  
が、9月6日に内閣官房副長官（内閣官  
房長官を補佐する特別職の国家公務員、  
認証官であり、副大臣と同等の待遇）

に就任されました。管内閣では、国会対策委員長代理と  
してねじれ国会で野党との対立が厳しさを増す中、野党  
協議に努められました。野田首相からは「1年間ねじれ  
国会の中で仕事をしてきた蓄積を生かして仕事をして  
ほしい」との要請を受け、就任を決意されたそうです。  
これからの活躍を期待しております。

### なでしこジャパン“矢野喬子さん”がんばれ！

ご承知とは思いますが、本年6～7月にかけて日本中  
を感動させた FIFA 女子ワールドカップドイツ大会に出  
場した矢野喬子さんは、神大国際経営学科の卒業生です。

8月18日には、ワールドカップで初優勝し「広く国  
民に敬愛され、社会に明るい希望を与えた」ということ  
で、団体として始めて国民栄誉賞が贈られました。

9月1日～11日まで開催されたロンドンオリンピッ  
クアジア最終予選にもサッカー女子日本代表「なでしこ  
ジャパン」のディフェンダー（DF）として出場し、活  
躍しました。矢野さんのプロフィールをご紹介します。



（写真提供：浦和レッズ）

予選ではレギュラーを勤め、決勝ト  
ーナメント・アメリカ戦で活躍しました。平成19年に  
卒業後、浦和ダイヤモンド・レディースにプロ契約選手  
として正式入団し、ワールドカップやオリンピック予選  
にメンバーとして選ばれました。これから益々の活躍を  
期待し、応援していきましょう！

### <わが支部の紹介>

### 石川支部の紹介 花岡 鉄男

宮陵会石川支部事務局長の花岡と申します（昭和46  
年法律卒、原事務局長と同期）。原事務局長と交流があ  
り、その縁でこの度の「三浦半島支部だより」に寄稿す  
ることになりました。

まずは石川県のPRをさせていただきます。北は日本  
海に突き出た能登半島から、南は富士山、立山と並ぶ日  
本3名山の白山に至る細長い地勢で、その真中に京都・  
金沢市があります（人口44万人）。近年、金沢城址が  
整備され、古い町並みや兼六園、21世紀美術館巡りの  
観光客も多くなっています。平成24年に新幹線の開通  
も予定され、これまで以上に北陸の中心的な役割を担う  
こととなります。三浦半島支部の皆さま、ぜひ石川に足  
をお運びください。夜の金沢をご案内いたします（当支  
部ご用達の高級で割安なお店をご紹介します＝事務局  
長保証付き）。

さて、本支部の現状ですが、800人超の会員を数える  
ものの、その活動は停滞気味で、運営に苦慮しているの

が実情です。活動として、3年に1回の支部総会（北陸ブロック会と合流）を開催しています。ちなみに、平成21年の総会では、エベレスト登頂に成功し、7大陸最高峰を制覇した支部会員の田中康則氏の講演を企画し、好評を得ました。また、年数回の役員有志による情報交換会を実施しています。この先、人事の若返りを図り、魅力ある同窓会活動再開のため、自薦、他薦工作をしているものの、暗礁に乗り上げている状態です。

母校や宮陵会の発展のため、今後とも微力ながらお役に立つことがあれば"横浜六角橋魂"で協力したいと思っています。皆さま、どうかよろしくお願ひいたします。



宮嶋清明副支部長（昭和42年法経卒 左端）や京浜地区から訪れた神大OBと旧交を温めた夜の1コマ（H22.11 金沢のとある高級料亭で。左から2人目が筆者）

## ＜紹介コーナー＞

### わが社・わが店・わが商品



「セントラルホテル」  
伊藤一利（昭和53年英文卒）  
いつも利用しているセントラルホテルに、神大卒業生がいらっしゃいましたので、ご紹介いたします。

昭和53年英文科卒の伊藤です。日頃から宮陵会三浦半島支部の皆様には、新年会や総会、各種会合等でセントラルホテルをご利用くださりましてありがとうございます。

横須賀で初のシティホテルとして開業（当時はワシントンホテルの呼称）してからもうすぐ満30年を迎える当ホテルですが、途中バブル経済の崩壊や隣駅汐入に同業他ホテルの進出等があり、厳しい状況も多々ありました。しかしながら、先代社長より事業を継承した現在の社長のセントラルホテル再建に懸ける情熱と経営手腕の元、全従業員一丸となって“地域密着主義 横須賀で一番”をモットーに日々精勤に努め、現在に至っております。

また、改めて紙面をお借りいたしまして3月11日の東北大震災の犠牲者の方々へ心よりご冥福とお悔やみ申し上げます。東北大震災の発生時、三浦半島一帯も地震の影響で停電

となり、一部地域では深夜まで電力が復旧せず交通機関もストップ。多くの帰宅困難者で溢れました。幸い、当ホテルでは電力も復旧し通常営業可能となりました。3F、4F、5Fのロビーを多くの帰宅困難者の方々に開放した結果、300名程の人達が始発電車までお過ごしになりました。毛布、ひざ掛け、ミネラル水等ホテルとしては可能な限りのものを無料で提供させて頂きました。お帰りの際、ご年配の方、若いグループの方、仕事帰りの方、多くの方から「ありがとうございました。本当に助かりました。」の感謝の言葉を聞いた時、横須賀の地元の皆様のお役に多少はたてたかなという充足感とこれからもより横須賀の地に深く根ざした、地元のお客様の為のセントラルホテルでありたい、との思いを強くした出来事でした。

さて、個人的なことで恐縮ですが、私自身も昭和49年から53年まで4年間、六角橋のキャンパスでお世話になりました。在学中は、いろいろな方々に大変お世話になり、ありがとうございました。今後の宮陵会・三浦半島支部のご発展と神奈川大学の箱根駅伝での健闘を祈念しております。

それでは、これからもセントラルホテルをご利用くださいますよう、従業員一同、心よりお待ちいたしております。

#### 『宮陵会の皆様へ優待のお知らせ！』

セントラルホテルより宮陵会三浦半島支部の皆様へ当ホテルの宿泊料金平日15%割引、日・祝日30%割引特典をプレゼントさせていただきます。ご予約の際一言、「宮陵会・三浦半島支部会員です。」とお申し出ください。

電話：0468-25-1234

## 支部同好会通信（世話人が紹介します）

小池氏製作（紙きり）

### ● ゴルフ会世話人:中川六郎（昭和44年経済卒）

メールアドレス：[nakaroku@jcom.home.ne.jp](mailto:nakaroku@jcom.home.ne.jp)



7月15日、葉山国際カンツリー倶楽部エメラルドコースで第15回宮陵会三浦半島支部オープンゴルフコンペが22名参加で行われました。小川勲夫宮陵会副会長、

長田貫磯子支部長、そして紅一点、徳間小百合氏等にも参加いただき、夏の爽やかな風の中でゴルフを楽しんでいただきました。優勝は、2回目の有川貢司氏で宮陵会会長杯を獲得いたしました。準優勝は塚田尚氏、三位は



鈴木和夫氏でした。今回も、参加賞として好評をいただいております葉山プレドールのパンをお持ち帰りいただきました。なお、次回以降は、新ペリア方式から宮陵会ハンディを適用して、多くの人に優勝のチャンスがあるようにいたします。次は10月21日に千葉で開催する予定です。どなたでも参加できるオープンコンペですの



で、お友達やご家族をお誘いのうえ是非ご参加ください。お待ちしております。

7月15日葉山国際カントリー倶楽部にて

●テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: [kichiemu@mbj.nifty.com](mailto:kichiemu@mbj.nifty.com)

連絡先: 046-875-5079



テニス同好会の開催日時は、原則として毎月第3月曜日の11時~16時に茅ヶ崎の湘南ローンテニスクラブのビジター制度を利用して開催しています。運動不足解消にテニスボールでも打ってみるかという向きには、基本からお相手します。テニスシューズのみ用意いただければラケットは試供品が利用できます。また、初めての方には無料の体験見学制度があります。クラブにはシャワー、食堂のほか、隣接にオーナー経営の地ビールレストランがありますので、汗を流したあと訪れるのも一興です。西に富士山、大山が望める緑豊かな環境で、コートはクレーですので膝に優しく、初心者ご家族大歓迎です。なお、今年も大学の富士見高原研修所での夏季合宿を、家族を含め総勢8名で実施しました。毎日3時間のテニスのほか、バーベキュー、野生の草花を訪ねて

のハイキングなど好天に恵まれ、楽しい3日間を過ごせました。

8月11日~13日 長野県神奈川大学富士見研修所での合宿にて



●歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス: [w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp](mailto:w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp)

歩こう会では、6月4日に逗子の蘆花公園→長柄・桜山古墳群→上ノ山運動公園→二子山→森戸川源流→長柄から逗子へ戻るコースをとりました。地元の「長柄・桜山古墳群をまもる会」の会長・発見者の方に解説をお願いし、発見当時の様子やその後の重要な史跡であること、弥生時代から古墳時代にかけて渡来してきた人達の生活環境等を説明していただき、有意義で



した。次回は、鎌倉の神社・仏閣を散策する予定ですので、是非ご参加ください。



6月4日 蘆花公園 郷土資料館にて

●つり会世話人:清水英樹(昭和56年法律卒)

メールアドレス: [Shimih01@kanagawa-u.ac.jp](mailto:Shimih01@kanagawa-u.ac.jp)

連絡先: 090-2257-0691

釣り部を発足させましたが、まだ2回の釣行しかしていません。参加人数も少なく土・日に船を仕立てるには人が足りません。しかし、私は鯛釣りが大好きで、年間を通して久里浜沖、剣崎沖に出かけます。写真は今年の5月に釣った4.6キロ72センチの真鯛です。「毎回このよう大鯛が釣れます



から是非一緒にいかがですか。」と言いたいところですが、実際は…。私と釣りに行ってくれる方を大募集中です。

支部HP(ホームページ)の実績とお願い

<http://miurahanto.blog.shinobi.jp> 塩塚 定雄

支部広報のお手伝いをしています塩塚(昭和48年貿易卒)です。

支部のホームページが立ち上がって5年が経過しますが、アクセス数は2300件余り(1日1.2件)に止まっております。

本ホームページを魅力あるものにしていくために、情報収集にも努めてまいりますので、PCをお持ちの会員の皆様には、時々開いてご覧ください。アク



セス件数の向上を目指しましょう！ また、情報提供もお願いいたします。なお、支部 HP から神奈川大学と宮陵会本部へも接続することもできます。

## 事務局からのお知らせ

### 新会員のご紹介 (敬称略)

- 深津敏夫 (昭和 51 年経済学科卒) 逗子市新宿
- 田中章仁 (平成 10 年経済学科卒) 鎌倉市七里ヶ浜

### ご案内

- 支部役員会 平成 23 年 10 月 1 日 (土) 城ヶ島京急ホリ
- ホ-ムシグ- 平成 23 年 10 月 16 日 (日) 横浜キャパス  
(対象者：昭和 36 年 3 月以前、昭和 51 年 3 月、平成 3 年 3 月、平成 13 年 3・9 月、平成 22 年 9 月、平成 23 年 3 月の各卒業生)
- 箱根駅伝予選会 平成 23 年 10 月 15 日 (土) 9:30  
陸上自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園

### 支部年会費納入のお願い

支部年会費の振込をお願いいたします。該当者には郵便の「払込取扱票」を同封いたしました。振替手数料は支部で負担いたします。

- ◎郵便振替受入口座：00290-5-95815  
宮陵会三浦半島支部
- ◎横浜銀行口座：久里浜支店 普通預金 1747984  
宮陵会 (神奈川大学校友会) 三浦半島支部
- 支部年会費は年間 3 千円、4 年間前納は 1 万円です。  
(支部の活動は支部年会費で運営し、宮陵会本部の会費とは別です。)

### 支部年会費納入状況 (H23.9.10 現在)

〔平成24年3月末まで納入済〕 (敬称略)

(鎌倉) 篠田 拓郎、	川瀬 元夫、	山岸 一輔、
井口 淳		
(逗子) 長澤 良成、	石渡 浩、	深津 敏夫
(葉山) 小池 邦夫、	中村 進、	周藤亜矢子
(横須賀) 鈴木 昭利、	萩原 孝、	角谷 彰、
石井 一男、	石渡 敏夫、	塚田 尚、
大倉 国光、	浅山 正義、	奥野 晶洋、

(横須賀) 久保田宣彦、 相原 充、 鈴木 和夫、  
二井美恵子、 菊池 武、 箕輪 義夫、  
名取美佐男、 川口 好孝、 堀越 昌樹、  
清水 洋一、 吉田 武男、 市川 国男、  
西脇 幸二、 島 久喜雄、 島崎 和久、  
青山 隆一

(三浦) 天白世里子

### 〔平成25年3月末まで納入済〕

(横須賀) 蛭子 英二、 上原 章道、 薨田 俊秀  
植山 修治、 武井 利徳、 永野 茂  
石渡 卓、 長島 保雄、 三縄 義和

### 〔平成26年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 石井 和行、 若林 秀明、 古川 勝彦  
(逗子) 岸本 光瑞 (葉山) 岩澤 正之  
(横須賀) 山内 元式、 八嶋 政臣、 中山 廣男  
落 勝廣、 村田 龍也、 結城 康雄  
長谷川征勝、 金井 昌孝、 熊澤 勝喜  
福島 康臣、 砂川 正夫、 森下 守久  
鈴木 稔、 野村 晴男、 嶋田 晃  
塩塚 定雄、 内藤 正久、 清水 英樹  
工藤 真也、 舟崎 学志

(三浦) 原 柳作、 石渡 大輔

### 〔平成27年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 小澤 光、 矢澤 基一、 田中 章仁、  
(葉山) 中川 六郎、 石渡 俊一  
(横須賀) 鳥海 洋義、 星山 正範、 鈴木 康介、  
石田 泰教、 稲垣 茂、 嶋田 順子、  
松岡 和行

合計：84名

### ～編集後記～

ふと気がつけば今年も3か月半あまり。今年はいろいろありました。東日本大震災、福島第一原発事故と放射能汚染、欧米の財政不安による世界株安と超円高、危機感のない政治と国会の機能不全ほかネガティブな話題が溢れていましたが、唯一「なでしこジャパン」の活躍には救われました。時は一様に過ぎていきますので、暗い気持ちでいてもしかたありません。丁度これから駅伝の季節です。母校の活躍を祈りながら、今年は予選会の応援に出かけてみませんか。応援の熱気と結果発表までのドキドキ感、否が応でも高揚させられます。是非体験してみてください。(N)